

城山エコミュージアム通信

平成25年(2013)12.15 第18号



エコミュージアムとは、エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

気分は空中散歩!

相模原IC(インターチェンジ)工事が進む小倉を訪ねて

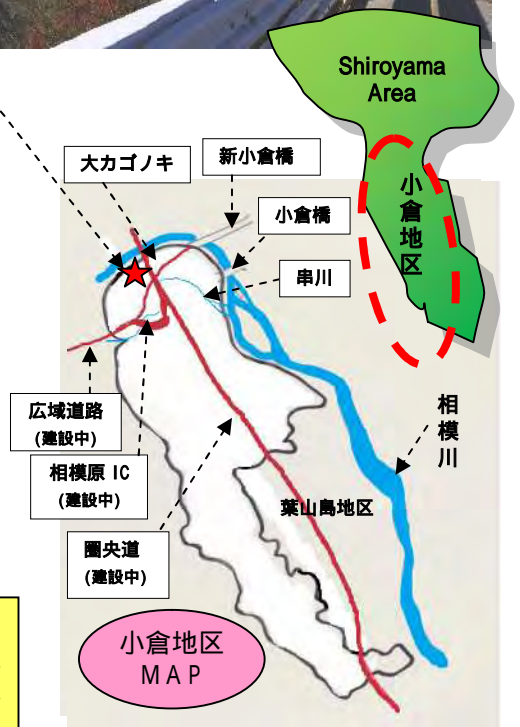
地域紹介 **小倉**

語り手 田野倉 肇さん
田野倉 武さん



来年開通予定の圏央道相模原IC

小倉と言えば「相模川と小倉橋」のイメージがありますが、今回は視点を变えて、丘の上から小倉を見てきました。「圏央道工事の様子を眺めるならここ」と案内されたのは、小倉原バス停に近い、工事現場の入口です。目の前に広がるパノラマは、巨大な圏央道本線の高架橋と料金所へのループ線、それらの道路を支える橋脚などの建造物、そして、その背後に連なる小倉の山々でした。視線を左に移すと、小倉の山へ入るトンネルの孔(坑口)が見られ、さらにその先には、相模川とその中洲、諏訪森下の水田が広がっています。料金所右手に見える小高い山は十兵衛山で、ここに登れば相模原の市街も一望できるそうです。さあ、あなたも開通前の圏央道を眺め、一足速い空中散歩を楽しんでみませんか?(榎本)



小倉橋(下)と新小倉橋(上)



小倉橋の魅力と交通渋滞

「小倉橋の近く」と言えばすぐに分かってもらえるほど有名な小倉橋は、小倉地区住民の自慢。夏のライトアップと、灯籠流しでは沢山の観光客が訪れます。小倉橋は、対面通行ができず、朝は万年渋滞が起き住民の悩みの種だったとのこと。新小倉橋ができ、だいぶ改善されたそうです。



小倉は30年近く、ずっと工事中なんです

平成元年に始まった、新小倉橋の工事が平成16年まで続き、さらに平成9年からは圏央道の工事が、そして平成26年の完成後は、今度はまた、リニア新幹線の工事が始まる予定です。公共事業なので仕方ありませんが、工事に伴う住民の移転による過疎化が心配だそうです。



大カゴノキ

「かながわの名木100選」に選ばれた大木。津久井方面へ向かう広域道路工事の為周囲の木は切り倒されてしまいましたがこの木は残されました。



今回のトピック 地域紹介「小倉」の魅力紹介
城山検定「日本一」の樹のどんぐりはどれ?

城山エコミュージアムツアー報告
相模原市文化財展展覧のお知らせ等

テーマ

時をたどり、道をたどり、伝説の里へ

～ 龍籠山伝説と小松・城北を歩く～

平成 25 年 10 月 13 日 (日) 開催 (編集: 田畑)

まずは、10月13日に行われた、エコミュージアムツアーからです。おもな見所と、参加者の感想を紹介します。

金刀比羅宮と龍籠山

金刀比羅宮の境内には湧水池があり雨乞いの場とされてきた。水や龍神と関係の深い金刀比羅宮を祀り水難除け、雨乞いの霊験を願った。「雨降龍籠山」ともいう。

広田の田んぼ

小松谷戸の方の田んぼは目方の単位で貫がついた「五貫田」(5貫の米が取れる田んぼの意)という名の田んぼがある。広田は広さの単位の「反」を使った名の田んぼなので、小松よりもずっと後に新田開発されたところ。正面に雄龍籠山、雌龍籠山が並んで見え、その間から川が流れ谷戸を形成している古くからの里山の風景が広がっている。(写真: 田中次雄)



昔の龍籠山小松地区について

おはなし 柳川 静徳さん
 ダムが出来た前の龍籠山は断崖絶壁で昼でも暗く、子ども達は遊びに入ると言われていた。小松地区についても話を伺った。(詳しくは本紙 17号小松特集参照)



城北窯戸工房

おはなし 樋口 圭一さん

工房は、里山の保護を考え昔ながらの炭焼きを仲間8名で始めた。炭は好評で地元のお祭りなどで販売している。「小松・城北」里山を守る会が発足し、里山の古道の復活や、雑木を使って炭を作り里山の環境を守っている。次世代の担い手確保が課題とのこと。



参加されたみなさんの声

何気なく見過ごしている所にいるいろいろな伝説があると感心しました。自然の緑に充分浸って興味があって楽しかった。地元にはいろいろ伝説があるのだと思いを新たにしました。本ツアーに参加して数年間、地域の事を少しずつ教えてもらう楽しみ。今回も増えました。等々
 =ご参加頂きありがとうございます=

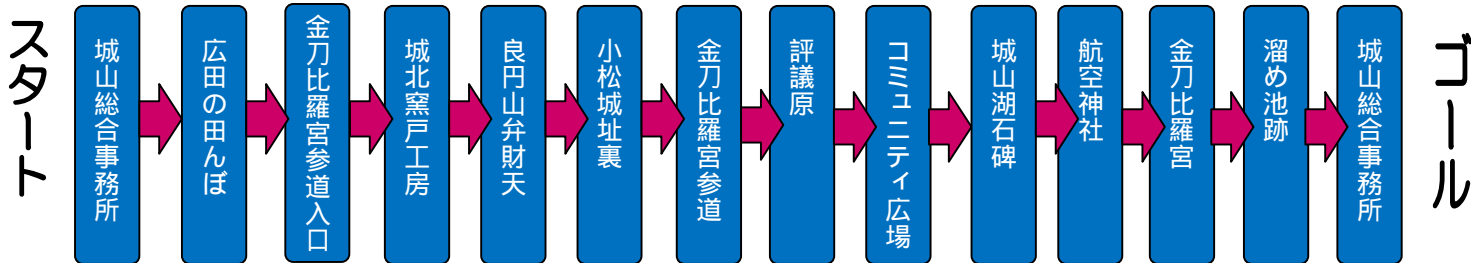


評議原

評議原は昔小松城の武将たちが評議したとの言い伝えがあるが、イロハカエデの紅葉が有名。この辺りは広葉樹が多く昔は雑木と呼ばれ薪にした。落ち葉も集められ家畜の敷料や肥料にした。石油ガスが登場し家庭で薪を使わなくなり「薪山」のような風習は無くなった。評議原の紅葉は11月中旬以降見頃。(写真: 金子直美)

ツアー行程表

距離約 9 km、歩行時間は 3 時間 (説明時間は含みません)



活動レポート

ジモトの魅力、再発見する機会に

～「城山の史跡や歴史を辿る」をテーマに、地域の方を案内～

11月16日(土)城山公民館事業「しろやま成人学級」の皆さんを小松・城北地区を案内しました。総勢20名の一行は広田へ。稲刈りを終えた田んぼの向こうには青空を背景に龍籠山がぼっかりと顔を出していました。城北窯戸工房、良円山弁財天、溜め池跡を過ぎると、コースは長い上り坂。小春日和の暖かい日差しを受け一汗かいた頃金刀比羅宮へ到着。神社の前から関東平野の展望を楽しみました。(見通しが良い日には日光の男体山、筑波山、スカイツリー、江の島などが一望できますが、残念ながら遠方はモヤがかかっていた)航空神社、加藤武雄文学碑を訪ねてからコミュニティ広場で昼食。当日は三分程度の紅葉だった紅葉の名所評議原を通り抜け、金刀比羅宮参道を下りました。小松城跡では、城跡に



関東平野を望む



オヤマボクチ

ふさわしい植物オヤマボクチ(御山火口)と出会いました。オヤマボクチの枯れた葉を手で揉むと糸のような繊維が綿のように取れて、これを縄のようにして火縄を作り、戦国時代には火縄銃に使用していたそうです。「この植物は最もふさわしい場所に根を降ろしたものだ」と感心する声もありました。川尻八幡宮境内の古墳及び春林横穴墓群では、成人学級の皆さんが10月に見学した埼玉県さきたまの国指定史跡埼玉古墳群の丸墓山古墳・吉見百穴とは規模・年代は違うものの城山にもこうした遺跡が残っている事に参加者一同感動した様子でした。城山の歴史や自然に親しんだ1日となりました。

(写真:城山公民館)(森久保)

活動レポート

親子で歩く、秋の里山満喫!

～自分だけの“里山の秋”発見!子ども達の感性が光る～



金刀比羅参道で自然散歩

11月9日(土)城山公民館事業「しろやま里山探検隊」で、子ども達を里山へ案内しました。金刀比羅宮参道では、元気な男の子たちに先導され、落ち葉やどんぐりを拾いながら、自然観察をしました。子供たちは、評議原での、どんぐりの芽と根の出方や、紅葉のしくみの説明、溜め池跡での、溜め池と稲作の関係のお話などを熱心に聞いていました。城山ふれあい水路での水生動物のお話では、ドジョウやヤゴに目を輝かせていました。城北センターに戻り、クイズシートの答え合わせの後、自分だけがみつけたもの紹介をしましたが、それまで大人しかった子どもたちが活発に手を挙げ発表、司会の金子さんも圧倒されていました。その中身を少しだけ紹介しますと、双子のネコジャラシ、クスサンのまゆ、特大ホウノキの葉、根が出たどんぐり、くりやクルミ、ヤマイモ、ヤシャブシの実などでした。落ち葉や木の実によるアート作成では、班ごと、個性あふれる作品ができ、子ども達の感性の豊かさに驚かされました。(写真:城山公民館)(榎本)



作品作りに夢中!

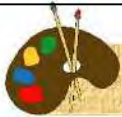
知ってナットク!
しろやま



城山
検定

城山地区には推定樹齢約600年、日本一のウラジログシと言われている大木があります。ウラジログシ(常緑のどんぐりの樹)は、次のどのどんぐりをつけるでしょうか。





城山探訪 “日本一”のウラジロガシ



ウラジロガシ(裏白檜)はブナ科の常緑高木です。中沢地区にあるこの木は、高さ 20m程、推定樹齢 600 年の大木。“日本一”の由来は、8m40 cm程ある太い幹周りです(通常のウラジロガシは幹周りが 3m程です)。この木は、平成 16 年さがみ縦貫道路整備の関係で周囲の木を伐採したことにより発見されました。木の下にはお稲荷さんがありご神木として大切に守られてきたのではないかと考えられています。

(出典：城山エコミュージアムツアーガイドブック より)



城山検定 解説



殻斗(かくと、ドングリの帽子)の模様が 番はうるこ模様、番はしま模様になっています。

番はコナラやナラガシワ。コナラはこのあたりで最も多いドングリです。

番は正解のウラジロガシ以外にはアラカシ、シラカシなど。常緑のドングリ(カシ)に多い模様です。

番は殻斗がバナナの皮のようにむけるスタジイ(シイ)。神社に多く、ご神木となっているものもあります。

番はクヌギ。カブトムシ、クワガタはクヌギの樹液が大好きです。

正解は、番です。

今秋はコナラのドングリが豊作でした。イノシシにはたらふく食べてもらい、農作物を餌にしないでもらいたいものです。(出題者：山口雅之)

募 昔の 集 写真 中

ネガ・ポジOK



1枚の写真が、地域の昔を伝える

皆さんからお借りした写真が大活躍中!

城山地区市民文化祭にて昔の写真展の開催

11月3日(日)~4日(月)

毎年好評を頂いている昔の写真展、今年も城山地区市民文化祭で開催しました。今年のテーマはずばり「昔の写真展」。今まで展示した写真の中から相模原市立博物館写真展での展示内容をもとに、10のコーナーを設け展示しました。

地域カメラマンの先覚者・八木蔦雨氏写真展を開催

11月9日(金)~17日(日)

城山地区敬老事業実行委員会からの要請により、11月16日(土)城山地区演芸大会の前にもみじホール城山ギャラリーへ写真の展示を行いました。来場者同士で、写真を見ながら和気あいあいと語り合っている姿が印象的でした。

若葉台自治会文化祭へ展示協力

11月23日(土)~24日(日)

出前・昔の写真館開催でお世話になった若葉台クラブの要請により、若葉台地区の開発に関する写真パネルを貸出し、自治会文化祭で活用して頂きました。



今後の予定

事業参加 相模原市文化財展(出展)

日時：2月14日(金)正午
~2月16日(日)午後4時
会場：ポーノ相模大野3階
ユニコムプラザマルチスペース
お問い合わせは、下記問合せ先まで。



編集 後記

小倉地区の取材では、両田野倉さんにお世話になり、とても楽しい取材ができました。カゴノキの後ろには、既に相模川を渡る圏央道の橋が架かっており、いつかこの橋を渡って小倉へ来れるようになるといいなと思いました。(写真：森久保新一)(榎本克義)



新小倉橋の上から見た小倉地区



一緒に活動しませんか？

城山エコミュージアム運営委員会では、地域の昔の写真、古道、自然、通信づくりなど、それぞれの興味にあわせて活動しています。高校生以上の方ならどなたでも参加可能！まずは見学してみませんか？詳しくは右記まで。ご連絡をお待ちしています。

企画/作成：城山エコミュージアム運営委員会

発行：相模原市教育委員会生涯学習課城山教育班

問合せ：TEL：042-783-8184【直通】

FAX：042-782-1290

この通信のバックナンバーは、ホームページ(パソコン)からもダウンロードすることができます。携帯からも活動内容をご覧いただけます。

